

第1学期終業式式辞（令和7年7月18日）

皆さん、今日で1学期も終わりです。始業式では、2、3年生の皆さんにエレファントシンドロームの話をしました。1学期の間、いろんなことに挑戦をして経験値を上げてくれていたらうれしいです。

さて、今日お話しするのは、私が大学生のとき、関西で大きな地震がありました。そこで経験したことです。地震発生から一週間後に、私は電車とバスを乗り継ぎながら、丸一日かけて現地に向かいました。向かった先は、神戸市の東灘という地区の住宅街です。そこで10日ほど、災害普及のボランティアとして活動しました。確か4日目の朝だったと記憶していますが、今でも忘れられない光景があります。1月だったのでとても寒く、朝6時半から白い息を吐きながら拡声器を片手に、何時からどこの公民館でお風呂に入れます、というアナウンスをして回っていました。

その時の町の様子は、1階が押しつぶされていたり、傾いていたりする家が多くて、まるで自分が斜めに立っているような不思議な感覚でした。そして、しばらく行くと、被災された方が20人くらいで静かに1列に並んでいるんですね。何だろう、と思って列の先頭に目を向けると、そこには、ガラスが割れたコンビニがありました。そして、その店の入り口に、マジックで「朝7時から営業」と書かれた紙が貼られていました。私が忘れることができないのは、ただそれだけの光景です。しかし、こう思いました。「寒くて不便な生活が続くなか、この人たちは、秩序を守って開店を待っている、日本人ってスゲー！」と感じたのです。大げさに聞こえるかもしれませんが、人の強さを感じ、目頭が熱くあったのを覚えています。

これに近い話はスポーツの国際大会のたびにありますね。サッカーワールドカップでは、日本人サポーターが会場のごみを拾っていることが海外メディアに大きく取り上げられました。また、メジャーリーグの大谷選手がごみを拾うことも取り上げられますが、これは特別なことではありません。皆さん自身もそうです。例えば今日、学校から帰る途中、道に落ちている財布を見つけたらどうしますか。「やったあ、今日はごちそうだ」とはならないですよ。これらは、私たちの体の中に、正しい、人としてのプライドのようなものが備わっているからではないかと思います。「だれも見えていなくてもちゃんとする」そんな無言の倫理観が、我々の社会には深く根付いています。

プライドを持て、ということは、決して「偉そうにきなさい」ということではありません。プライドを持つと、自分自身を価値ある人間だと思えるの

で、自分を大切にします。すると、自分を支えてくれた人に対して、感謝の意を持つようになります。すると、人は幸せな気持ちになります。ですから、大洲農業で生活を送っている皆さんには、学校生活のいろんな場面で、プライドを持ってほしいのです。何年何組としてのプライド、何年生としてのプライド、学科としてのプライド、何部としてのプライド、そして大洲農業生としてのプライド、などです。

私がこの1学期間で見つけた、皆さんの大洲農業生としてのプライドを1つ紹介します。6月に体育館で行われた、農業クラブの第1回各種発表校内大会でのことです。休憩時間になり、外のトイレに行くついでだったのでしょう、体育館を出たところの下駄箱の前で、ばらばらになっていた、クラスの他の人の靴を、男子2人がきれいに並べていたんですね。それを見て私は、「いいね！素晴らしい！」と声をかけると、2人は、「当然のことをしただけです」とおどけながら言っていました。他人の靴を並べる行為は、靴がきちんと並んでいる大洲農業高校であってほしい、というプライドを持っているから自発的にできることです。

そんなことを言っても、プライドを持つなんて難しい、と思っている人もいるかもしれません。実は、今からでも、だれにでもできる方法があります。それは、「誰にでもできることを誰よりもする」ことです。例えば、毎朝、職員室にホームルームのカギを取りに来る人がいますね。その人がいるから、2番目からの人はスムーズに教室に入ることができます。教室のカギを開ける行為は、その人がクラスの中で自分の存在意義を作っているのです。普段の掃除でもそうです。窓ガラス一枚、中庭の一角、範囲を決めて、この範囲は、汚れや雑草を残さない。日常生活の中でも意識して取り組むと、プライドを持つことができます。「誰にでもできることを誰よりもする」。教室で、部活動で、ぜひ実践してください。

さて、3年生の皆さん、夏休みが終わるといよいよ人生の次のステージを決定する時期に突入します。この夏に、しっかりと準備を進めてください。そして、1、2年生の皆さん、1学期の高校生活を振り返って、100点満点の何点の生活だったでしょうか。学校生活の中での皆さん一人一人の役割というのは、来年、再来年と、さらに大きくなってきます。ぜひ、引き続きいろんなことに挑戦して、人間力を高めてほしいと思います。それでは2学期に、元気な皆さんに会えることを楽しみにしていることをお伝えして、私の話を終わります。